

大学総合研究センターについて

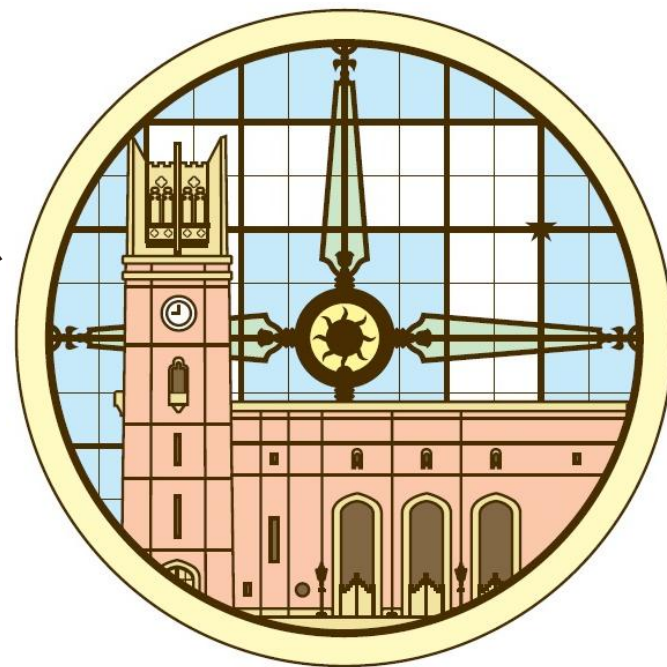


早稲田大学 大学総合研究センター
Center for Higher Education Studies, Waseda University

1. 大学総合研究センターのミッション

教育、研究、経営。大学のあるべき将来の姿をデザインします。

早稲田大学 大学総合研究センターは、本学の教育、研究、経営の質的向上に資する自律的・持続的な大学改革を推進するために2014年2月に設置されました。大学の理念に基づき、高等教育に関する研究およびIR、教育手法の研究・開発・普及促進とその実践を支援しています。これらを達成するため、高等教育研究部門(CHEIR)、教育方法研究開発部門(CTLT)の二つの部門を設ける他、2025年2月より、早稲田大学創立150周年記念事業を推進することを目的として、新たに全学研究教育連携部門(CCRE)を設置しました。



2. 大総研の事業



【Waseda Vision 150の関連核心戦略】

- 核心戦略2
グローバルリーダー育成のための教育体系再構築
- 核心戦略3
教育と学修内容の公開
- 核心戦略4
対話型、問題発見・解決型教育への移行
- 核心戦略5
大学の教育・研究への積極的な学生参画の推進
- 核心戦略12
進化する大学の仕組みの創設

3. 運営体制

所長：濱中 淳子
(教育・総合科学学術院教授)

高等教育研究部門 (CHEIR)

○副所長：橋本 一径
(文学学術院教授)

副所長：鳥居 朋子
(大学総合研究センター教授)

山田 寛邦 講師 (任期付)

陳 麗蘭 講師 (任期付)

武藤 浩子
次席研究員 (研究院講師)

教育方法研究開発部門 (CTLT)

○副所長：尾澤 重知
(人間科学学術院教授)

副所長：井上 史子
(大学総合研究センター教授)

阿部 真由美 講師 (任期付)

藤川 希美 助教

全学研究教育連携部門 (CCRE)

副所長：尾形 祥
(法学学術院教授)

副所長：古井 健二
(理工学術院教授)

吉澤 剛 准教授

山本 佳世子
上級研究員 (研究院教授)

○：部門長

事務所

事務長1名、専任職員 (本属) 4名、専任職員 (兼務) 1名、嘱託職員1名

4. 兼任センター員・招へい研究員

研究プロジェクト等名	氏名（所属・資格）
トランジションに着目した学生の学びや成長に関する研究プロジェクト	—
教学IRにおける包括的well-being研究プロジェクト	—
学生と教員の生成AI利活用の実態に基づく教学IRとFDの架橋プロジェクト	—
部門付	ドーラン ダニエル（商学学院 教授） 札幌 順（元・早稲田大学大学総合研究センター 教授）

5. 事業1—FD(Faculty Development) ～授業支援～

2020年4月に開設したCTLT(Center for Teaching, Learning and Technology)では、教育・学修支援ならびにIT利用支援のワンストップサービスを提供しています。

【サービス概要】

- ① Waseda Moodle (LMS) 利用相談
→LMSであるWaseda Moodleの授業利用支援
- ② ICTツールを用いた授業の運営相談
→ハイフレックス型授業等でのICTツールの授業利用支援
- ③ FD (Faculty Development) 支援
→教員に向けた各種研修プログラムやセミナーの開催
- ④ TA(Teaching Assistant)育成
→ワークショップ、オンデマンド研修科目の配信
- ⑤ オンデマンド授業・MOOCs(Massive Open Online Courses)についての相談
- ⑥ 教室設備・自動収録システム・遠隔接続利用相談
- ⑦ IT利用相談 など



5. 事業2ーFD ～Good Practiceの普及・展開～

学内で実践されている優れた教育実践事例の共有と普及・展開をはかるための取り組みの一環として教員表彰制度「早稲田大学ティーチングアワード」を実施し、Good Practice共有のため、担当教員に対するインタビューを公開しています。

Waseda Moodle Good Practice Case1 : インタラクティブなオンデマンド授業の実践



Waseda Moodle Good Practice Case2 : 学生のモチベーションを高める工夫



「誰も置いていかない」を本気で目指す生命科学の授業設計

2024年度開講科目早稲田大学ティーチングアワード
総長賞受賞

対象科目：生命科学B (1)▶

受賞者：坂内 博子▶



本授業は、先進理工学部電気・情報生命工学科に所属する学生の多くが履修する選択科目「生命科学」である。必修ではないものの、3年次の配属条件の一つに含まれており、結果として学年の大半、9割以上の学生が履修する。主な履修者は1年生で、例年70～80名規模のクラスで運営されている。

学科全体の教育目標は、電気・電子・情報・生命といった異なる分野を横断的に理解し、それらを統合できる人材の育成にある。本授業はその中で「生命」に関する基礎的な素養を身につけることを目的とし、電気や情報を専門とする学生が、生命科学をどのように捉え、将来の専門と接続していくかを意識した構成となっている。

授業は対面、Zoomによるリアルタイム配信、さらに録画によるオンデマンド配信を併用するハイブリッド形式で行われている。教科書の内容をすべて網羅するのではなく、重要な概念を抽出し、最新の研究動向や新聞記事なども交えながら、生命科学を身近な学問として感じられるよう工夫されている。

5. 事業3ーFD ～海外協定校連携プログラム/各種セミナー～

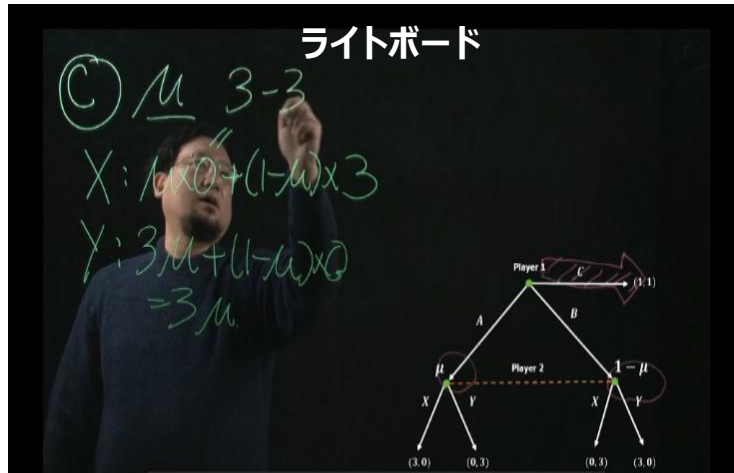
学習者中心の考え方をベースとした教授法を学内に導入すること、国際的に通用する授業運営方法を教員が習得することを目的として、海外派遣型・講師招聘型のFDプログラムを運営しています。教授法のセミナー、授業見学や現地教員とのディスカッション等を行います。派遣先は米国の[ワシントン大学](#)や[五大湖周辺私立大学連盟\(GLCA\)に属するリベラル・アーツ・カレッジ](#)です。また英国のOxford EMIが提供するEMI（英語を母語としない学生に対する英語での授業）向けのプログラムも提供しています。

また、「CTLTセミナー」「Faculty Café」「Edu Lunch」といった各種イベントを実施しており、授業改善に繋がる情報の提供や、授業におけるGood Practiceの共有を行っています。



5. 事業4ーFD ～ 教育手法の研究・開発～

デジタルキャンパスコンソーシアム（通称：DCC）において、新しい教育手法につながるICTの利活用の実験を行い、新たな教育手法の研究・開発を行っています。



5. 事業5 高等教育研究（教学マネジメント支援、教学IR）

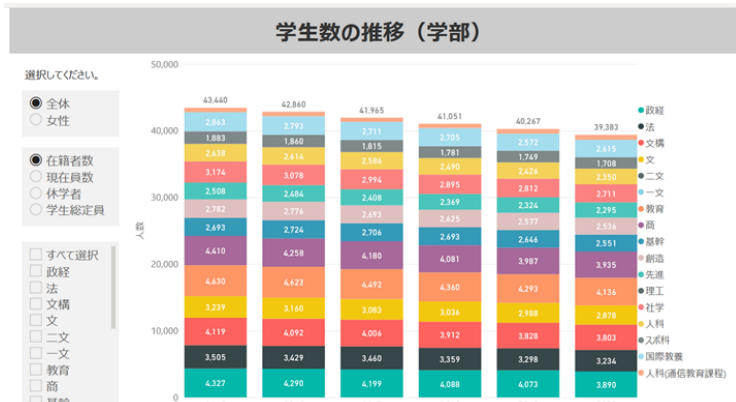
教育の質向上、内部質保証への貢献のため、教学マネジメント支援や教学IRを推進しています。

【BIツールを活用した情報の可視化・共有事例】

【自己点検・評価にかかる支援】

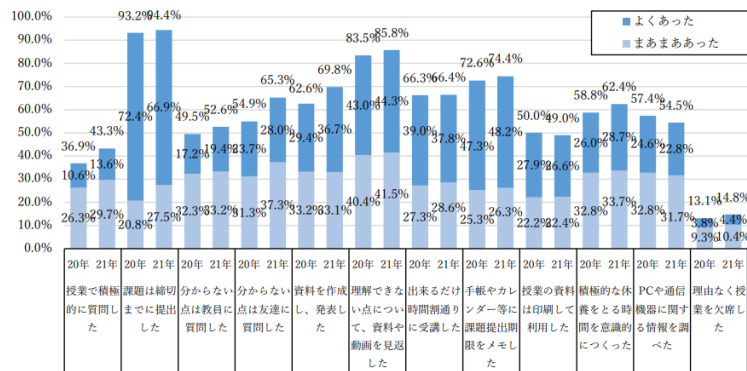
■ 学内統計情報（2021年度～）

■ 自己点検・評価に関する質問フォーム運用（2022年度～）



【各種調査の実施・分析・報告】

■ 学生生活・学修行動調査（2020年度～）



自己点検・評価に関する質問フォーム

●各箇所からのお問い合わせとともに、FAQの作成や学内展開する自己点検・評価に関するコンテンツ等の検討および作成を進める予定です。

●入力内容は教務部教育企画課および大学総合研究センターに送付されます。

●質問とその回答は、原則一覧として公開します。これまでの質問に対する回答は随時更新します。

●入力の前に、下記のガイドブック等もご一読ください。

・自己点検・評価ガイドライン：

・学修成果の可視化に関するガイドライン：

・カリキュラム・マップ作成ガイド：

・ルーブリック作成ガイド：

●基本的に匿名のフォームとなります。ただし、質問の意図等を把握したうえで回答することが望ましい場合もあると考えておりますので、教育企画課／大学総合研究センターより質問内容について確認をさせていただく場合がございます。差し支えなければ、お名前・連絡先をご入力ください。

●本フォームに関するお問い合わせ、または教育企画課／大学総合研究センターに個別にご相談いただく場合は、
にご連絡をお願いします。

* 必須

1. 質問の種類 *

☐ 3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）

☐ 学修成果の設定

☐ 学修成果の可視化（アセスメントポリシー）

☐ 学修成果可視化後の取り組み

5. 事業6 — MOOCs

「教育と学修内容の公開」に向けた取り組みのひとつとして、MOOC(Massive Open Online Course)プラットフォームの一つであるedXにて、国内外に向けて早稲田大学の最先端の研究成果にもとづいた講義配信を行っています。

(WasedaX : <https://www.edx.org/school/wasedax>)

【最近制作したWasedaX講座】



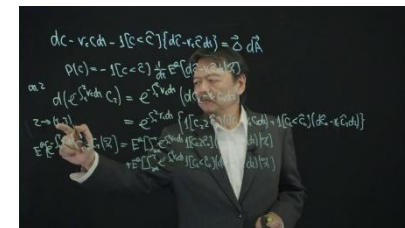
Sports Safety: A Guide to Preventing Sudden Death in Sports
(スポーツ科学部・細川 由梨先生)



Anthropology of Fairtrade: A Case of Coffee-Growing Area in Lao PDR
(文化構想学部・箕曲 在弘先生)



Uncovering the Voices of Japanese Literature
(国際文学館・ロバートキャンベル先生監修)



Black-Scholes Model: For Proprietary Trading
(経営管理研究科・中里 大輔先生)

6. 刊行物・報告書

【刊行物】

- Good Practice 集
- 「対話型，問題発見・解決型教育」導入のための手引き
- CTLTガイドブック
- 100分授業のガイドライン

【報告書】

- 入学時調査（旧・新入生調査）
- 在学時調査（旧・学生生活・学修行動調査）／卒業時調査
- 校友調査（学部卒業後10年）（旧・卒業生調査）
- アセスメント・ポリシーと学修成果の可視化の検討
- 早稲田大学の卒業生が身につけるべき資質・能力の検討 など

